利益相反抑止の考え方について

平成 26 年 6 月 4 日
自動走行システム推進委員会議長
プログラムディレクター
渡 邊 浩 之

1. はじめに

- 推進委員会およびWGを運営するにあたり、構成員が利益相反行為の懸念を外部から抱かれな
いようにすることは、関係者が意識を合わせ、最大限注意すべきこと。以下、運営に当たって
注意すべき点、考え方を記す。

2. 基本的な考え方

- 自動走行システム推進委員会運営要領第 4 条に基づき、議長の判断により必要な場合は構成員
に退席を命じることとする。

(構成員の退席)

第 4 条 議長は、研究開発の内容、目標等の検討にあたり、構成員の出席が将来の研究開発の
進捗管理等に支障を生じる可能性があると判断した場合は、当該検討に係る議事について当該
構成員の退席を命じることができる。

3. 構成員の退席について

- 構成員の退席は、大きく以下に示す 2 つの場合に基づき、事務局と相談の上、議長が命じる。
① 構成員からの自己申告
② 関係各省庁および内閣府からの提案
- なお、会合前に退席の判断を容易に行えるようにするため、会合の予定議事は可能な限り早期
に明確化して構成員に示すとともに、次項に示す「退席を求める議事内容」に該当するかどうか
を関係者が確認することとする。

4. 退席を求める議事内容

- 構成員またはその所属組織が応募する可能性のある案件について、公募要領等、その内容を事
前に知ることが他の潜在的な応募者と比較して著しく有利となる懸念をもたれる可能性のある
議事。以下、その懸念が生じうる案件を示す。
① 現研究開発計画において今後詳細を検討するとした施策（内 1, 2 等）
② 受託者決定前の公募案件
③ 現研究計画に示されていない新たな施策
- なお、公募要領等の最終確認や予算調整に関する議論は、議長が関係各省庁と実施する。

5. 新たに着手するテーマの議論から公募までの流れ（退席が必要となる議論のイメージ）

- 全員で議論
① 実現イメージ、到達目標等の議論
② 実現方法の提案と議論
③ 実現方法の整理（方向性の確定）
→ここで次回以降が「退席を求める議事内容」に該当することを関係者で確認する
- 該当者退席による議論
④ 実現方法の詳細化（仕様に深い事項：研究内容、アウトプット、スケジュール等）
- 公募文書作成・公募
⑤ 担当省庁による公募文書案作成
⑥ PDによる公募文書案確認
⑦ 公募開始

以上